

人口減少地域における公立高等学校の魅力化について

～三重県立飯南高等学校の取り組みの成果と課題から～

風岡 治*・安藤茉梨***・伊藤里紗***・杉浦百香***・林 菜織***・間瀬真由佳***・三浦明里***

1. 研究の目的と背景

地方創生下における人口減少地域の都道府県立高等学校再編政策に焦点を当て、国の地方創生政策と文部科学省の政策、そして県や市の政策が人口減少地域の教育行政分野にいかなる影響を及ぼしたのか、近年の教育行政空間の変容から現状と課題を明らかにする。

事例に即した事例分析を行い、学校と地域の連携・協働による活性化や魅力化について、コミュニティ・スクール指定の影響、中高一貫教育の影響、財政・財務及び設置形態の影響の三つの次元を設定し、それに加えて三重県で活発なソーシャル・ビジネス・プロジェクト（Social Business Project、通称 SBP）¹について調査研究を行う。

具体的な分析の対象、方法としては、公立高等学校の地域連携施策に絞った定性的事例研究とし、高校とその高校が設置されている地方自治体との関係構造を、現地訪問研修および資料収集を基に、意志と行動を明らかにしながらその変容過程を明らかにする。

研究手法としては探索的な定性的事例研究と位置づけ、地方創生の中で進められた高校改革の事例を学校へのインタビューや統計資料等を用いて、深く掘り下げて整理していく。

調査研究の2年目として、愛知県よりも人口減少が進み、人口減少地域に対する施策を積極的に行っている三重県に着目し、個別の高等学校の事例分析として、三重県（三重県立飯南高等学校および連携型中高一貫教育校である松阪市立飯南高等学校）を対象として調査研究を進めた。

飯南高校は、3つの観点およびSBPが充実し、文部科学省事業の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の採択を受けて、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取り組みを積極的に行っている。これらを理由に対象校として選定した。

2. 地方創生政策の影響を受けた高校改革の動向

(1) 地方創生政策と高校改革

地方創生政策は、国の人口減少や東京一極集中化、地域経済の現状を踏まえ、平成27年度から行われている。同年の6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」では、地元学生定着プランの具体的な取組の一つとして、学校を核とした地域力の強化が挙げられている。この取組では、全公立小・中校区において学校と地域が連携・協働する体制を構築するために、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部などの取組を一層促進するとともに、今後の学校と地域の連携・協働の在り方や推進方策について検討を進め、結論を得るとしている。²

平成30年6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」では、地域における若者の修学と就業の促進のために、地方創生に資する高等学校改革が推進された。高等学校の

*教育ガバナンス講座

***教育ガバナンス講座 学生

¹ 地域の課題をビジネスの手法によって解決していこうとする取り組み

² 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/20150630siryou3.pdf>

段階で地域の産業や文化への理解を深めることは、その後の地元定着やUターンにも資する。そこで、高等学校が地元市町村や企業と連携しながら、高校生に地域課題の解決を通じた探究的な学びを提供するカリキュラムの構築などを行う取組を推進するとともに、進路決定後の期間を利用したインターンシップの充実を通じて地元へ根ざした人材育成を強化するとした。また、これらの取組を充実させるためには、高等学校と地域の関係者との間で継続的に緊密な連携が必要であり、地域関係者によって構築されるコンソーシアムの設置などといった事例紹介を行いながら推進するとしている。³

令和元年6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」では、前年度の基本方針を踏まえ、地方創生に取り組む学校の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員に、市町村長または市町村教育長などの参画を促進するなど、実質的に市町村が高等学校の運営に参画できるような協働体制の構築を推進するとしている。また、地域・高校魅力化コンソーシアムの設置を促進するとともに、高等学校と地域をつなぐコーディネーターの在り方について検討し、その育成を推進することとした。⁴

その後、令和3年6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」では、小・中・高等学校における人材育成の推進という点から、小・中・高等学校におけるキャリア・パスポートの活用について、学校間での継続性を図り、より地元企業への理解を深めて地域の実情に応じた小・中・高等学校が一貫したキャリア教育を推進するとしている。⁵

(2) 文部科学省の政策

平成27年12月の中央教育審議会の「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」では、地方創生の観点を踏まえて、「地方創生の観点からも、学校という場を核とした連携・協働の取組を通じて、子供たちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進していくことが重要である」としている。⁶

学校と地域の連携や協働による活性化や魅力化を図るうえで推進されているのが、コミュニティ・スクールや中高一貫教育である。答申では、学校運営協議会について、地域住民や保護者が学校の運営に積極的に参画することで、自分達の力で学校をより良いものにしていこうとする意識が高まり、それを学校が受け止め、学校と地域住民や保護者が協力し合って学校の運営に取り組むことが可能になる仕組みとして意義を持つとしている。また、コミュニティ・スクールの一層の推進を図るため、コミュニティ・スクールの導入に伴う体制面や財政面の支援の充実など、財政的な支援を含めた条件整備や質の向上を図るための方策を総合的に講じていく必要があると

³ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」（最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/h30-06-15-kihonhousin2018hontai.pdf>

⁴ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」（最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/r01-06-21-kihonhousin2019hontai.pdf>

⁵ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」（最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/r03-6-18-kihonhousin2021hontai.pdf>

⁶ 文部科学省 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）（最終閲覧日 2022/01/21）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/05/1365791_1.pdf

した。この答申を踏まえ、平成 29 年 4 月には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、コミュニティ・スクールの導入が努力義務とされた。

一方、中高一貫教育については、平成 26 年 12 月の中央教育審議会の「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）」において、小中一貫教育の制度化をはじめとする学校段階間の連携の一層の推進について提言がされている。答申では、制度化の意義として教育主体や教育活動、学校マネジメントの一貫性を確保した取組の実施が可能になることや、制度的基盤が整備されることにより、国や県からの支援の充実が行いやすくなるなどを挙げている。⁷また、平成 27 年 6 月には学校教育制度の多様化および弾力化を推進するため、「学校教育法等の一部を改正する法律」によって中高一貫教育が制度化されることとなった。

(3) 三重県立高等学校改革の動向

三重県の高校改革の流れについては、表 1 の通りである。

三重県では、平成 12 年度以前、少子化の進行によって中学校卒業生数が減少しつつあった。急激な少子化のなか、「三重県教育振興ビジョン 21 世紀を拓く三重の教育改革プログラム」では、今後の高等学校教育の活性化が目指された。平成 12 年度には、三重県高等学校教育改革推進協議会が、調査研究報告書を踏まえ、高等学校の適正規模や総合学科の在り方などについて審議を行った。また、地域の実情などに留意しつつ、地元の協力を得て、学習者の視点に立った学校の特色づくりの一層の推進が目指された。⁸

平成 13 年には、三重県高等学校教育改革推進協議会から、審議のまとめとして「県立高等学校の適正規模・適正配置の推進について」が公表された。⁹その後、審議会のまとめなどを踏まえ、平成 14 年度から 23 年度を計画期間とする「県立高等学校再編活性化基本計画」が策定された。この計画では、県立高等学校の活性化と適正規模・適正配置の推進を図ることが目指され、通学可能な地域に中高一貫教育校を 1 校以上設置することとされた。¹⁰

平成 14 年には基本計画を踏まえ、「県立高等学校再編活性化実施計画」が策定された。この計画は、計画期間を平成 14 年度から 16 年度の第 1 次と、平成 17 年度から 19 年度の第 2 次、平成 20 年度から 23 年度の第 3 次に分け、基本計画を推進するために三重県教育委員会による具体的な実施内容について示したものである。今回の調査対象校である飯南高等学校に関する提言に目を向けると、第一次計画では、小規模校について、平成 14 年度に関係地域ごとに当該高等学校を中心に「協議会」を設置して、地元関係者とも連携をとりながら検討するとしている。また、松阪地域では、近い将来に高等学校の小規模化が進むと予想されることから、飯南高等学校を含

⁷ 文部科学省 子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）（最終閲覧日 2022/01/21）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/12/22/1354193_1_1_1.pdf

⁸ 三重県教育委員会 HP 県立高等学校再編活性化計画にいたる経緯（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOKAI/HP/kasseika/18197018848.htm>

⁹ 三重県高等学校教育改革推進協議会 県立高等学校の適正規模・適正配置の推進について（審議のまとめ）（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090655.pdf>

¹⁰ 三重県教育委員会 HP 県立高等学校再編活性化基本計画の概要（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOKAI/HP/kasseika/18198018849.htm>

む高等学校の今後の在り方について、統廃合も視野に入れて「協議会」で検討するとあった。¹¹ 続いて、第二次計画では、飯南町立飯南中学校、飯高町立飯高西中学校および同町立飯高東中学校との連携型中高一貫教育の成果を検証しつつ、今後の松阪地域における高等学校の在り方について、飯南高等学校を松阪高等学校の分校とすることも視野に入れて検討するとしている。¹² 第三次計画では、平成 19 年度から飯南高等学校がコミュニティ・スクールの指定を視野に入れた研究を進めていることを踏まえ、他の県立高等学校へのコミュニティ・スクールの導入についても検討を進めるとした。¹³

平成 24 年度からは、より活性化を進めることを目指して、「県立高等学校活性化計画」が策定された。この計画は、平成 24 年度から 28 年度の 5 年間を計画期間とし、これまでの「基本計画」と「実施計画」の内容を踏まえたものである。¹⁴

平成 28 年 3 月には「三重県教育施策大綱」が策定され、三重の教育の基本的な方針や教育施策が示された。大綱では、「三重ならではの」教育の推進といった基本方針において、「地方創生の観点に立ち、将来世界で活躍する者にも、郷土の未来を担う者にも、心の土壌としての郷土への思い、地域社会の発展に貢献する意欲、異なる文化を理解する態度等を育てていくことに意を用います。」とあり、三重が持つ多様な地域力を活かした教育を推進するとしている。また、コミュニティ・スクールなどの推進、学校の特色化や魅力化によって、地域に開かれる学校づくりを推進していくとあった。¹⁵ これを踏まえ、「三重県教育ビジョン」では、高等学校の特色化や魅力化において、地域や産業の発展に貢献できる人材育成を推進するため、地域活性化に関する教育活動の充実を検討するとした。¹⁶

平成 29 年には、前年度の三重県教育施策大綱と、三重県教育ビジョンに基づいて「県立高等学校活性化計画」が策定され、地域から信頼される学校づくりや高校の特色化や魅力化を図っていくことが必要とされた。特に、県立高等学校の規模と配置について、「高等学校の配置については、学校の規模だけでなく、地域の担い手育成や若者の地域への定着などの地方創生の取組が進められていることや生徒の通学などの教育機会の保障に配慮することなどをふまえて考える必要がある。」とされた。¹⁷ さらに、令和 2 年 3 月策定された「三重県教育施策大綱」では地域おこし協力隊などの地域づくりをサポートする人材の育成やネットワーク化という項目が¹⁸、「三重県教育ビジョン」では地域と学校をつなぐコーディネート機能の強化という項目がそれぞれ追加

¹¹ 三重県教育委員会「県立高等学校再編活性化第一次実施計画」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090629.pdf>

¹² 三重県教育委員会「県立高等学校再編活性化第二次実施計画」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090630.pdf>

¹³ 三重県教育委員会「県立高等学校再編活性化第三次実施計画」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090631.pdf>

¹⁴ 三重県教育委員会「県立高等学校活性化計画」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000636951.pdf>

¹⁵ 三重県 三重県教育施策大綱 平成 28 年度～平成 31 年度末（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000880915.pdf>

¹⁶ 三重県・三重県教育委員会 三重県教育ビジョン 平成 28 年度～平成 31 年度（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000627286.pdf>

¹⁷ 三重県教育委員会「県立高等学校活性化計画」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000720765.pdf>

¹⁸ 三重県 三重県教育施策大綱 令和 2 年度～令和 5 年度（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000881500.pdf>

された。¹⁹

また、三重県では、地方創生や地域振興の観点から SBP を推進している。平成 30 年 3 月に策定された第 1 期「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」（改訂版）では、若者の県内定着の促進の取組として、高校生の地域活性化の取組への推進や県内高等教育機関の魅力向上・充実を掲げている。具体的には、高校生が地域活性化の取組に参画し地域への愛着や絆を深めるために、地域と連携する高等学校の取組に対して支援を行うことや、県内高等教育機関相互の連携や地域との連携による魅力向上を図るために、「高等教育コンソーシアムみえ」を通じて地方創生に取り組む市町や地域の支援などといった取組を推進するとしている。²⁰ みえ県民力ビジョン・第三次行動計画では、第 1 期で取り組んできた成果を土台に地方創生の実現に向けて戦略を推進していくとあった。²¹ その後、令和 3 年に「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の成果レポートが公表され、令和 2 年度の成果を受けて引き続き「高等教育コンソーシアムみえ」の取組を通じて、三重県で学び、働き、住み活躍する若者を増やしていくとした。²²

¹⁹ 三重県・三重県教育委員会 三重県教育ビジョン 令和 2 年度～令和 5 年度（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000898581.pdf>

²⁰ 三重県 第 1 期「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 30 年 3 月改訂版）

平成 27 年度～平成 31 年度（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000776826.pdf>

²¹ 三重県 みえ県民力ビジョン・第三次行動計画 第 3 編 「地方創生の実現に向けて」

令和 2 年度～令和 5 年度（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000883280.pdf>

²² 三重県 令和 3 年版成果レポート第 4 章「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000966555.pdf>

表1 三重県の高校改革の流れ

平成11年	3月	「三重県教育振興ビジョンー21世紀を拓く三重の教育改革プログラムー」策定
平成11年	7月	「三重県高等学校教育改革推進協議会」をもとに 「三重県高等学校再編活性化推進調査研究委員会」設置
平成13年	3月	「県立高等学校の適正規模・適正配置の推進について」の公表
平成13年	5月	「県立高等学校再編活性化基本計画」策定 (平成14年度から平成23年度まで)
平成14年	3月	「県立高等学校再編活性化実施計画(第1次)」策定 「県立高等学校再編活性化基本計画」を踏まえ、計画期間を3期に分けて策定協議会を設置し、活性化に向けた方策等の検討を行う (平成14年度から平成16年度まで)
平成16年	12月	「県立高等学校再編活性化実施計画(第2次)」策定 (平成17年度から平成19年度まで)
平成20年	3月	「県立高等学校再編活性化実施計画(第3次)」策定 (平成20年度から平成23年度まで)
平成23年	3月	「三重県教育ビジョン」を策定し、子ども達に育みたい力として「自立する力(輝く未来を拓く力)」と「共に生きる力(共に生きる未来を創る力)」を示す
平成25年	3月	「県立高等学校活性化計画」策定 (平成24年度から平成28年度まで)
平成28年	3月	「三重県教育施策大綱」策定 「三重県教育ビジョン」策定 (平成28年度から令和元年度まで)
平成29年	3月	「県立高等学校活性化計画」策定 (平成29年度から令和2年度まで)
平成30年	3月	第1期「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」(改訂版)策定 (平成27年度から平成31年度まで)
令和2年	3月	「三重県教育施策大綱」策定 「三重県教育ビジョン」策定 (令和2年度から令和5年度まで)
令和2年		第2期「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定 (令和2年度から令和5年度まで)
令和3年		令和3年版成果レポート第4章 「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組」

(三重県教育委員会のホームページなどを元に作成)

3. 松阪市の動向と飯南地域の概要

松阪市の総人口は、平成17年の168,973人をピークに減少に転じており、令和3年11月時点では、156,991人となっている。世代別に見ると、生産年齢人口は、平成7年にピークを迎え、以降減少に転じている。年少人口は、第2次ベビーブーム期に一時増加に転じたが、以降は減少に転じている。老年人口は一貫して増加を続けており、平成7年以降、年少人口を上回っている。出生数と死亡数による自然増減は、平成15年頃までは出生数が死亡数を上回る「自然増」であったが、平成16年以降は死亡数が出生数を上回る年も増え、平成22年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」が拡大している。転入と転出による「社会増減」は、平成19年までは転入が転出を上回る「社会増」の状態であったが、平成20年以降は平成25年を除き転出が転入を上回る「社会減」が続いている。²³

これらの課題を踏まえ、松阪市においても人口ビジョンを時点修正し、地方創生への切れ目ない取組を進めるため、国の総合戦略における4つの基本目標に重点を置き、横断的な目標も視野に入れた戦略を展開する。²⁴ここでいう4つの基本目標とは、「稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする」「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」ということであり、横断的な目標とは、「多様な人材の活躍を推進する」「新しい時代の流れを力にする」ということである。また、多様な人材が活躍できる環境づくりや、Society5.0を支えるIoTや5G、自動運転などの技術の活用など、人口減少の課題に的確に対応し、持続可能なまちづくりの実現を目指している。

そのための方策として、「少子化対策」「雇用創出」「地域づくり」「定住促進」の4つの分野で取り組みを展開していく。少子化対策については、出逢いの支援や妊娠・出産・乳幼児期の途切れのない支援、未就学児の保育環境の充実など、結婚や出産、子育て、子どもの教育についての施策を行っている。雇用創出については、地域産業の人材確保・育成や企業誘致活動の展開、創業しやすい環境づくりなど、地域産業の振興や企業誘致、仕事の創出、ワーク・ライフ・バランスの推進についての施策を行っている。地域づくりについては、魅力ある景観によるまちづくりや防災・減災対策の推進、地域主体のまちづくりなど、まちづくりや安全・安心、コミュニティづくりについての施策を行っている。定住促進については、愛知県をはじめとした都市部への人口流出を抑制するため、松阪市に住み続けたいと思える施策を展開している。若年層の転出超過の大きな要因である進学に伴う転出を防ぐために、高等教育機関の誘致など、学ぶ場の充実に取り組んでいる。

今回対象とした飯南地域（飯南町・飯高町）は、松阪駅から20～60km離れた松阪市西部の山間地域で、西端は奈良県との県境に位置し、紀州藩の参勤交代の道である和歌山街道沿いに開けている。²⁵面積は、飯南町76.33km²、飯高町240.94km²である。

令和3年11月時点の飯南町、飯高町の総人口は、4,353人、3,319人である。年少人口の割合は、飯南町8.5%、飯高町5.8%であり、老年人口の割合は飯南町43.6%、飯高町53.4%となっている。

²³ 松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略「松阪イズム」平成27年度～平成31年度（最終閲覧日2022/01/21）

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/128.pdf>

²⁴ 松阪市総合計画「明るいわ！楽しいわ！松阪やわ！」令和2年度～令和5年度最終閲覧日2022/01/21）

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/51489.pdf>

²⁵ 三重県立飯南高等学校「学校要覧」

平成12年から令和3年までで人口は飯南町で約33%、飯高町で約41%減少しており、飯南地域の人口減少と高齢化が顕著に表れた。今後も減少が拡大することが予想される。

飯南地域の主要な産業は農業と林業である。特に林業では杉や桧の産地となっているが、生活様式の変化に伴う需要の減退や山村の若年労働力の都市への流出が増大し、過疎とともに衰退傾向にある。その対策として、特用林産物である椎茸栽培、森林を利用した観光施設等の活用も含めた新しい林業を模索し、老後の保障制度を整え労働力の確保に務めている。²⁶ また、粥見井尻の縄文遺跡や中央構造線の露頭、深野和紙の生産など、特色ある歴史や文化、自然にも恵まれており、このような地域資源を活かした観光産業にも注目が集まっている。

4. 対象校の概要

(1) 三重県立飯南高等学校

① 学校概要

三重県立飯南高校は、三重県松阪市飯南町に位置する学校である。昭和23年に創設された高校であり、全国初の連携型中高一貫教育実践校でもある。

平成11年度、連携型中高一貫教育を導入するとともに、普通科から総合学科1学年3学級に改編された。その後平成14年度、少子化の影響で平成14年度入学生から1学年2学級に削減し、3クラス展開できめ細やかな少人数教育に移行している。平成31年、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(地域魅力型)の指定を受けて、未来を切り拓く地域に根ざした人材の育成に努めている。学校の目標を「対話力」「追求力」「創造力」「発信力」の四つからなる「生きる力」と定め、「高校生が地域に貢献し、地域を活性化させる学校」として「日本で一番」を目指している。通学をするには、松阪駅からスクールバスで約50分を要する。

② 生徒の概況

現在の定員数は、各学年80人で計240人。現在の総生徒数は231人である。卒業生の進路は、大学・短大10.3%、専門学校15.3%、就職73.1%(令和3年3月卒業生)。四年制大学の進学先としては、皇學館大学、鈴鹿大学、日本福祉大学、愛知工業大学で年々進学者が増加している。短期大学は、高田短期大学、三重短期大学、専門学校は医療福祉や美容、デザインなど様々な方面への進学が見受けられる。就職先としては、三重県を中心に愛知や大阪の企業が多く挙げられている。松阪市内に就職したのは、49人中25人で51%である。就職者数のうち、飯南地域への就職者は1名で4%であり、地元飯南地域への就職者数の割合は極めて低い割合だといえる。²⁷

²⁶ 三重県 HP 松阪市飯高町の林業の現況 (最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/SHINRIN/HP/mori/12181014965.htm>

²⁷ 三重県立飯南高校公式ページ (最終閲覧日 2022/01/21)
www.mie-c.ed.jp/hiinan

表2 学年別在籍生徒数（令和3年5月1日現在）

	1年	2年	3年	合計
男	47	48	53	148
女	30	27	26	83
計	77	75	79	231

表3 卒業生進路状況（人数）

	平成30年度	令和元年度	令和二年度
大学・短大	5	4	8
専門学校	16	11	12
会社	48	56	53
家業・家事その他	5	3	5
計	74	74	78

（飯南高校学校要覧を元に作成）

③総合学科

飯南高校は、生徒が主体的に科目を選択して学習することのできる総合学科の高校である。

「環境」（郷土・環境）、「福祉」（介護福祉）、「国際」（総合進学）、「情報」（コンピュータ）に関する専門的な科目を、2年次より自由に選択して学習することができる。

郷土・環境系列では、伊勢茶・松阪牛・林業など三重県を代表する地場産業がある飯南地域下で、農業・木工・陶芸などの実習を中心とした授業を通して、農業・環境・郷土に関わる知識や技術を身につけ、実践的な技能や探究的な態度を養う。また、危険物取扱者資格や農業技術検定などの資格取得にも取り組んでいる。

介護福祉系列では、高齢者の介護や福祉に関する知識・技術を学び、それを生かして福祉・看護関係への進学や就職を目指す。また、地域課題に取り組み、より実践的な探究活動を行うことで社会貢献し、学習意欲も向上させる。介護職員初任者研修、福祉住環境コーディネーターなどの取得を目指している。

総合進学系列では、論文力やプレゼンテーション能力の向上を図りながら、追求力や発信力を身に付けて進学を目指す。地域の課題を統計データに基づいて考えたり、グローバルな視点でものごとを見たりと、地域を自分ごと化しながら学びを深めている。これらの活動を通して、進学や就職への意欲を高めている。また、三重大学、三重県立看護大学、皇學館大学、鈴鹿大学と連携した授業も行っている。

(2) 松阪市立飯南中学校

①学校概要

松阪市立飯南中学校は、三重県松阪市飯高町に位置する学校である。現在の総生徒数43人の小規模校といえる。平成28年度より、飯高東中学校と飯高西中学校が統合し、飯南中学校となった。平成29年度からは、中学校と校区内の2つの小学校（粥見小学校、柿野小学校）それぞれがコミュニティ・スクールとなった。

飯南高校とはキャリア教育で結びついている。例えば、総合学科である飯南高校の必修科目「産

業社会と人間」に接続する教科「人間と社会」を総合の時間の中に入れるという取り組みがなされている。中学校で高校総合学科の内容に接することにより、総合学科に興味を持ち、高校への進学に対して目的意識を明確にすることを期待する。しかし現在、飯南中学校と合わせて、卒業生の約31%が飯南高校へ進学し、同高校の在籍者に占める2中学校卒業生の割合は約23%という現状もある。

表4 在籍生徒数（令和3年4月現在）

学年組	1年A組	2年A組	3年A組	B組	合計
男子	6	8	12	2	28
女子	6	4	5	0	15
合計	12	12	17	2	43

②探究活動

飯南中学校では、地域を題材にして探究活動を進めることにより「課題対応能力」を育成すること、他者と協働して課題を解決すること、体験活動を重視すること、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を充実すること、郷土への誇りと愛着を感じることをねらい、問題解決学習を実施している。

全学年で総合的な学習の時間を「I—HOPE」と名付け、年間30時間の探究活動を計画的に進めている。1日探究活動をする日「I—HOPEデー」を設定し、地域の人や企業の人を講師に迎え、普段できない実験や現地調査、施設見学など聞き取り学習等を実施する。そして、課題解決の発表会を実施し、その際研究の成果をICT機器（iPad）でまとめることにより、「学びの深まり」「コミュニケーション能力の向上」を追求する。²⁸

年間30時間と限られた時間の中で探究活動を進めていくための「指導の工夫」をしながら、飯高地域の課題を解決することが「世界最先端の学び」である考えのもと、地域を舞台にした探究活動が今後も実施される。

5. 対象校の主な取り組みとその財政支援

(1)キャリア教育

飯南高校では、①地域と協働したキャリア教育②系統的キャリア教育③すべての教育活動でキャリア教育の3点を基本に、キャリア教育に取り組んでいる。

地域と協働したキャリア教育としては、地元の小学校・中学校との連携をはじめ、生徒が地域へ飛び出し地域を学び場とすることで「生きる力」を育てている。

系統的キャリア教育としては、1年次「産業社会と人間」2年次「キャリアデザイン」3年次「いいなんゼミ」を設置し、各学年に応じて計画的・系統的にキャリア教育を実施している。文部科学省の取り組みに先立って、キャリアパスポートにも取り組んでいる。キャリアパスポートとは、小中高とキャリアパスポート教育を1つのシートに記入して、その学習内容を振り返りながら、

²⁸ 三重県松阪市立飯南中学校 HP 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実 一夢を育み 未来を切り拓く「地域に根ざした人材」の育成（最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/52998/1451981.pdf>

記録を残していくためのものである。²⁹

図1にあるように、すべての教育活動でのキャリア教育としては、トピック的にキャリア教育を行うのではなく、すべての教科学習・特別活動を通してキャリア教育が必要とされる4領域能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）を育成している。

他にも基礎的な学びとして、人権教育や漢字・計算・一般教養・作文など基本学力の定着を図る「SHRの学び」（授業後10分間）が設けられている。



図1 文部科学省指定事業 令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）研究開発実施報告書 第一年次

(2) コミュニティ・スクール

① 飯南高校

飯南高校は、令和3年度よりコミュニティ・スクールに指定された。このことによって、飯南・飯高地域において、小中高がコミュニティ・スクールで緩やかにつながり、松阪市との連携が一層密になることと、地域との協働体制の持続可能性が高まることが期待されている。³⁰

コミュニティ・スクールの学校運営協議会は、平成29年度に導入された飯南高等学校活性化協議会（以下、活性化協議会）をそのまま移行するような形を取っている。学校運営協議会委員は13名で構成されている。活性化協議会は、三重県の県立高等学校活性化計画において、1学年3学級以下の小規模校に設置が認められたものである。令和3年度から新たにコミュニティ・スクールに指定されたことに関して、飯南高校の土方校長は「制度としてより恒久的なものにな

²⁹ 飯南地域 連携型中高一貫教育まとめ NO.23

³⁰ 三重県立飯南高等学校 令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）研究開発実施報告書 第2年次

ります。」と述べていた。

加えて、飯南高校には「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」の存在がある。「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」では、地域課題解決型キャリア教育の研究開発を進めるにあたり、目指している地域人材像を共有し、その育成に向けたカリキュラムや具体的な取組について、協議、支援・協力等を行っている。³¹

「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」のメンバーは、連携中学校、地元行政、地元企業、PTA、NPO、大学などの各機関の代表者で構成されている。学校運営協議会の母体となっているため、兼任している委員も多く見られる。

コンソーシアムにおける具体的な取り組みとして、フィールドワークの実施に関わる講師の紹介や、生徒輸送バスの運行、フィールドワーク先の受け入れなどがある。また、介護福祉系列内の授業で進めている「ふるさと看板プロジェクト」への協働や、美術部の緑茶ラテアートの販売・活動先の提供など、生徒の活動の幅を広げるための支援活動を行っている。³²さらに令和2年度は、「キャリアデザイン」における地元企業へのキャリアインターンシップに受け入れ場所を提供し、「いいなんゼミ」において生徒の“伴走者”として指導・助言を行っている。

以上のことから、コミュニティ・スクールと「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」が、学校と地域の接続をより活性化させる役割を担っていることが分かる。飯南高校の土方校長へのインタビューでは、コミュニティ・スクールが小中高で連携し、地域一体となって活動することに関して、「コミュニティ・スクールのような地域のつながりがないとさらに衰退していくことになります。自分事としてみんなで知恵を出していくための仕組みとして、コミュニティ・スクールがあることが大切です。」と述べていた。

② 飯高中学校

飯南高校とともに中高一貫教育を実施している飯高中学校は、平成29年度から学校運営協議会を設置している。令和3年度からは、コミュニティ・スクールにおいても飯南高校と連携することとなった。令和3年度時点で、飯南中学校と飯高中学校の2校が飯南高校と連携している。

飯高中学校では、地域の人々とめざす子ども像「地域とつながり、飯高を愛し、飯高を誇れる子ども」を共有し、「地域とともにある学校」を目指して、地域と一体になって子どもたちを育てている。コミュニティ・スクールを活かした体験活動によるキャリア教育で育成する力は、「キャリアプランニング能力」と「課題対応能力」である。主な活動として、地域人材を活用した体験活動、中学生の地域貢献・活性化プロジェクト、地域の人の授業参観などがあげられる。

「中学生の地域貢献・活性化プロジェクト」では、「中高生の店」での経験を活かして、生徒は地域の祭りでスタッフの仕事を体験する。そこで地域を知り、地域の活性化と地域への誇りを感じることができる。また、販売方法などを考えることにより、問題解決能力を育み、地域の人との関わりを通してコミュニケーション能力を育むこともできる。また、中学生と高校生がともに活動することで、中学から高校の接続の場が生まれるなどの様々な好影響をもたらすと考えられる。

³¹ 文部科学省「2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要」（最終閲覧日2022/01/21）
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afldfile/2019/09/11/1420971_11.pdf

³² 三重県立飯南高等学校 令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）研究開発実施報告書 第1年次

飯高中学校の森井校長は、小中高連携で地域と協働して活動することに関して、「学校に『来て来て』ではなくて、こちらからどンドン姿を見せる」ことで、地域住民の方々がより学校と関わりを持ちやすくなるようにしていると述べていた。このような学校から積極的に地域に働きかけようとする考え方が、飯高中学校の活動を支えていると分かった。コミュニティ・スクールを活かした活動が活発になることで、地域住民と中学生の関わりが増え、地域全体で学校や地域の課題意識を持てるようになることが期待される。令和3年4月時点で飯高中学校の生徒は43名となっており、今後も減少していくことが見込まれるため、課題意識を地域で共有していくことも地域と学校の双方において大切な点である。

(3) 中高一貫教育

飯南高校では、「地元の生徒を地元で育てよう」という目標を掲げ、飯南・飯高地域の2中学（飯南中学、飯高中学）とカリキュラムの連携や人事交流等により、6年間を通して学習できる。特徴的な取り組みとして、①教育課程②生徒の交流③教職員の交流④入学者選抜が挙げられる。

教育課程は、郷土学習の実施やキャリア教育の接続、総合学科4系列との連携が実施されている。郷土学習では、飯高中学校では、総合的な学習の時間を「I—HOPE タイム」とし、年間30時間の探究活動を行う。地域を題材にして探究活動を進めることにより、郷土への誇りと愛着を感じることを目指されている。³³ 飯南高校では、総合学科の系列の中に「郷土・環境」系列を設け専門科目を開設することで、中学校で学んだ郷土の基本的な内容をより発展、深化させる学習を行っている。

キャリア教育では、高校総合学科必修科目の「産業社会と人間」に接続する教科として、中学校に「人間と社会」が設定されている。そして、飯南高校2年次の「キャリアデザイン」から3年次の「いいなんゼミ」に繋げることで、中学校1年次から高校3年次までの6年間で、生徒の目的意識や進路選択能力の育成が図られている。

教職員の交流は、中学3年生から高校1年生のつなぎ学習に重点を置き、中学の教員が高校の授業へ、また、高校の教員が中学の授業に参加している。教科ごとに相互授業見学や教科会を実施したり、中高の生徒指導担当者、人権教育担当者、養護教諭による情報交換をしたりしている。生徒の交流については、中学校の各学年で年間2回程度実施している（生徒交流会・いいなんゼミ発表会見学・体験入学・連携入試対策講座など）。他にも高校の生徒会執行部や吹奏楽部、応援団 Circle が各中学校の文化祭を訪問、応援団 Circle と中学校生徒会等で、「道の駅コラボプロジェクト」を立ち上げ、地域に貢献しようという取り組みも行っている。

連携型中高一貫教育に係る入学者選抜では、学力検査や調査書を用いず、課題学習のまとめと面接による選抜を行っている。受験生を対象とした「連携入試対策講座」を行い、高校1年生が課題発表や面接のアドバイスを行っている。

また、中高一貫教育の趣旨を大学との接続にも活かすため、中高一貫教育と大学との連携に取り組んでいる。いいなんゼミでは、生徒自らの興味・関心から研究テーマを自由に設定し、そのテーマを調査・研究・作品制作・発表を行い、PDCA サイクルを取り入れた活動を通して課題解決能力を養う。テーマ設定の仕掛け作りとして、大学の教授による問いの立て方ワークショップが

³³ 松阪市立飯高中学校 HP 「I—HOPE（課題解決学習）まとめ」（最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/52938/1450291.pdf>

実施されている。生徒それぞれが、いま自分が置かれている現状から達すべき数値、成すべき状態、目指すべき具体像を目標として設定し、最終的に目指す事柄についてそれをやる意味、意図や目的を明らかにすることで、生徒主導の活動にとどまることなく、大人も巻き込んで社会に参画するというゴールを置くことを生徒・教員が共通の認識としている。これらのような大学・専門学校、企業・法人・官公庁とのフィールドワークや講義などを通じ、地域社会と連携して活動している。生徒の研究早期から大学や地域社会の大人たちを伴走者としてマッチングさせ取り組ませることで、生徒のポテンシャルを引き出すことも可能であるとしている。

(4) ソーシャル・ビジネス・プロジェクト (SBP)

SBPは、人口減少や高齢化の進む地域の中で、その地域の高校生が中心となって、行政や民間企業の協力の下、地域資源を活かしたビジネスを立ち上げ、自ら働く場を作り出すことで、地域に残りふるさとを守っていきこうとする取り組みである。³⁴ 飯南高校の土方校長は、飯南高校でSBPが始まった経緯について、「道の駅によくバイクが通ることから、地域外の人にも中高生が地域のことをPRする活動をしたらどうかと考えたからです。」と述べていた。具体的な活動として「道の駅プロジェクト」「緑茶ラテアート」「木の手帳製作」などが挙げられる。「道の駅プロジェクト」では、地域の活性化に貢献することを目標に、飯南中学校・飯南高等学校・飯南高校の有志が連携し、地元の道の駅と共同して中高生の店を開いている。中学生は募金の呼びかけやオリジナルTシャツの販売を行い、高校生はオリジナルTシャツやコップの販売を行った。「緑茶ラテアート」では、飯南高校の美術部が地元産深蒸し緑茶を使用し、地域のフェスティバルや道の駅にて出店をした。「木の手帳製作」では、応援団 Circle が地元林業企業3社と共同し、約1年かけて木の手帳の開発と製品化を行った。この経験を活かして、SBPの全国大会に出場し審査員特別賞を受賞した。

また、飯南高等学校の森井校長は、「道の駅プロジェクトで販売したTシャツなどをコミュニティ・スクールにおいても販売し、コミュニティ・スクールの予算としています。」と述べていた。

(5) 財政支援

「松阪市過疎地域持続的発展計画（令和3年度～令和7年度）」の人材育成の観点において、人材育成の地域拠点である飯南高校は存続に向けて魅力化を図る取り組みを進める必要があるとしている。そこで松阪市は、小中高コミュニティ・スクールや、飯南高校で行われているフィールドワークを通じた地域課題の探究活動などを効果的に連携させるとともに、子どもたちがさまざまな体験や交流を通して多様な価値観を身につけ、将来のまちづくりの担い手となる取り組みを推進している。³⁵

飯南・飯高地域では、小中高コミュニティ・スクールや中高一貫教育において、県や市から学校の裁量で自由に使用することのできる予算は無い。しかし、生徒がフィールドワークを行う際には、松阪市からスクールバスやマイクロバスの貸出を受けている。また、土日のイベントでの駐車場の整備やセミナーのチラシ作成などの協力も受けている。

³⁴ 三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 HP SBP（最終閲覧日 2022/01/21）

<http://www.mie-c.ed.jp/hnanse/schoollife/sbp/>

³⁵ 松阪市「松阪市過疎地域持続的発展計画（令和3年度～令和7年度）」（最終閲覧日 2022/01/21）

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/59861.pdf>

飯南高校の土方校長は、「モノや労働を伴う形でいろいろな支援があります。現実にこのような事業をするのでそれを助けてほしいときに支援してもらいます。」と述べていた。

また、飯南高校は令和元年度に「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に指定されている。そのため、地域おこし協力隊が、事業における地域協働学習実施支援員の役割を担っており、地域と協働した活動が課題解決型のキャリア教育の目標に近づくように、生徒とフィールドワークにも参加をしている。そして、飯南高校が行っている地域課題の解決を目指した学習と地域をつなぐ役割を果たしている。

6. 成果と課題

飯南高校では、地域の小学校・中学校との連携をするなど、地域を学び場とした探究活動を行っている。これらの取り組みによって、飯南高校以外へ進学した生徒のUターンや、飯南地域への愛着の育成が期待できる。また近年では、飯南中学校・飯南高等学校の卒業生数のうち約3割の生徒が、連携型中高一貫教育に係る入学者選抜で飯南高校に合格している。しかし、飯南高校の入学者定員に占める連携中学からの入学者数は約2割であり、中高の接続を前提とした教育が行えていないという現状がある。そして、飯南・飯高地域では少子化が進行しており、今後も生徒数の減少が予想されている。そこで、飯南高校では、地域の課題である少子高齢化や過疎化などの都市部ではできない学びの成果を活かし、大学に進学する生徒を増やすことで、地域外からの入学希望者数の増加を期待している。

飯南高校は令和3年度よりコミュニティ・スクールに指定されたばかりであるため、小中高の学校運営協議会との繋がりに関して、今回の調査で明らかにすることはできなかった。今後は学校運営協議会が小中高で連携することによってどのような成果が得られるのかを注視していく必要がある。

また、SBPにおいては、生徒が「木の手帳」で全国大会に出場し、賞を受賞したことが、学校内外に影響を与えた。土方校長は、「それまでは自信のない生徒が多かったですが、同じ学校の生徒が全国大会の決勝に残ったということで自信が付き、多くの生徒が変わることができました。そして教員間で地域と関わることに對する意味について様々な意見がありましたが、賞を受賞したことからSBPが評価される活動だと理解することができました。」と述べていた。さらに、地域へ飛び出した活動によって地域からの期待が高まりつつある。

そして、財政の今後の課題として、土方校長は「事業が終わった後でもコーディネーターの分だけは予算が必要です。市の予算で専属のコーディネーターを作れば、高校は探究という仕組みづくりができたので今後も続いていくと思います。」と述べていた。コーディネーターにどのように支援を継続してもらうかが課題となる。

7. 高校の魅力化に向けて

三重県では、過疎地域の人口減少に伴い、高等学校の小規模化が進むと予想されることから、適正規模と適正配置に向けて分校化や統廃合も視野に入れて検討され続けてきた。飯南高校は、地域に貢献し、地域を活性化する学校として日本一を目指し、コミュニティ・スクールやSBP、中高一貫教育などの取り組みを通して、飯南・飯高地域の特色を活かした活動を推進し、地域を学び場とした特色ある教育を発信していくことで、高校の魅力化に努めてきたことが分かった。一方で、飯南高校の魅力化は、地域にとっても重要な課題となる。飯南地域の人口流出の課題を

解決するにあたっては、高校の取り組みだけではなく、松阪市との連携や地域人材の育成、活用が必要であることが見えてきた。

今後は、人口減少などの地域課題の解決に向けた松阪市と飯南高校、地域住民が一体となった高校改革（魅力化）の変容プロセスに着目して、これを明らかにしていく。

【参考・引用資料】

- ・ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/20150630siryou3.pdf>
- ・ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針 2018」(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/h30-06-15-kihonhousin2018hontai.pdf>
- ・ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019」(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/r01-06-21-kihonhousin2019hontai.pdf>
- ・ 内閣府 「まち・ひと・しごと創生基本方針 2021」(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/r03-6-18-kihonhousin2021hontai.pdf>
- ・ 文部科学省 HP 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）(最終閲覧日 2022/01/21)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/05/1365791_1.pdf
- ・ 文部科学省 HP 子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）(最終閲覧日 2022/01/21)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/12/22/1354193_1_1_1.pdf
- ・ 三重県教育委員会 HP 県立高等学校再編活性化計画にいたる経緯
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOKAI/HP/kasseika/18197018848.htm>
- ・ 三重県高等学校教育改革推進協議会 県立高等学校の適正規模・適正配置の推進について（審議のまとめ）(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090655.pdf>
- ・ 三重県教育委員会 HP 県立高等学校再編活性化基本計画の概要
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/KYOKAI/HP/kasseika/18198018849.htm>
- ・ 三重県教育委員会「県立高等学校再編活性化第一次実施計画」
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090629.pdf>
- ・ 三重県教育委員会「県立高等学校再編活性化第二次実施計画」
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090630.pdf>

- ・三重県教育委員会「県立高等学校再編活性化第三次実施計画」
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000090631.pdf>
- ・三重県 三重県教育施策大綱 平成 28 年度～平成 31 年度末 (最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000880915.pdf>
- ・三重県・三重県教育委員会 三重県教育ビジョン 平成 28 年度～平成 31 年度
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000627286.pdf>
- ・三重県教育委員会「県立高等学校活性化計画」(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000720765.pdf>
- ・三重県 三重県教育施策大綱 令和 2 年度～令和 5 年度 (最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000881500.pdf>
- ・三重県・三重県教育委員会 三重県教育ビジョン 令和 2 年度～令和 5 年度
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000898581.pdf>
- ・三重県 第 1 期「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成 30 年 3 月改訂版)
平成 27 年度～平成 31 年度 (最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000776826.pdf>
- ・三重県 みえ県民力ビジョン・第三次行動計画 第 3 編「地方創生の実現に向けて」
令和 2 年度～令和 5 年度 (最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000883280.pdf>
- ・三重県 令和 3 年版成果レポート第 4 章「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組」(最
最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000966555.pdf>
- ・松阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略「松阪イズム」平成 27 年度～平成 31 年度
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/128.pdf>
- ・松阪市総合計画「明るいわ！楽しいわ！松阪やわ！」令和 2 年度～令和 5 年度
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/51489.pdf>
- ・三重県立飯南高等学校「学校要覧」
- ・三重県 HP 松阪市飯高町の林業の現況 (最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www.pref.mie.lg.jp/SHINRIN/HP/mori/12181014965.htm>
- ・三重県立飯南高校公式ページ (最終閲覧日 2022/01/21) www.mie-c.ed.jp/hiinan
- ・三重県松阪市立飯南高等学校 HP 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実
一夢を育み 未来を切り拓く「地域に根ざした人材」の育成—
(最終閲覧日 2022/01/21)
<https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/52998/1451981.pdf>
- ・飯南地域 連携型中高一貫教育まとめ NO.23

- ・令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）研究開発実施報告書 第2年次
- ・文部科学省「2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要」（最終閲覧日 2022/01/21）
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/09/11/1420971_11.pdf
- ・令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）研究開発実施報告書 第1年次
- ・三重県松阪市立飯高中学校 HP 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実—夢を育み 未来を切り拓く「地域に根ざした人材」の育成—
 （最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/52998/1451981.pdf>
- ・松阪市立飯高中学校 HP 「I—HOPE（課題解決学習）まとめ」（最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/52938/1450291.pdf>
- ・三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 HP SBP（最終閲覧日 2022/01/21）
<http://www.mie-c.ed.jp/hnanse/schoollife/sbp/>
- ・松阪市「松阪市過疎地域持続的発展計画（令和3年度～令和7年度）」
 （最終閲覧日 2022/01/21）
<https://www.city.matsusaka.mie.jp/uploaded/attachment/59861.pdf>
- ・宮崎稔（2020）『学校も地域もひらくコミュニティ・スクール』一般社団法人 農山漁村文化協会
- ・袖井孝子（2016）『「地方創生」へのまちづくり・ひとづくり』ミネルヴァ書房
- ・松見敬彦・大崎海星高校魅力化プロジェクト編著（2020）「高校魅力化 & 島の仕事図鑑 地域とつくるこれからの高校教育」学事出版
- ・本研究は、JSPS 科研費 20K02555 の助成を受けたものです。